

令和3年度 社会福祉法人 清陽会事業計画（抜粋）

清陽会の重点課題として

- 1 新型コロナウイルス感染症対策への取り組み
- 2 清陽会総合計画の実施に向けた事業の推進への取り組み
- 3 地域共生社会の実現に向けた経営確立への取り組み
- 4 福祉人材の確保、定着、育成への施策の実施

1. 新型コロナ感染症対策への取り組み

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、第2波、第3波と繰り返し、依然として終息の兆しがみえていません。清陽会としても、感染症蔓延に対応した事業継続計画について検討を進めていきたいと考えます。また、新型コロナウイルス感染症により、生活様式が大きく変わってきております。

施設内では、利用者のストレスに配慮しながら手洗い、うがい、マスクの着用、アルコールによる消毒を徹底します。日中活動においては三密を避ける工夫をし、常時換気を行うとともに空気清浄機を活用します。都内の感染者の状況を踏まえ、自宅支援やテレワークも取り入れ、休日の過ごし方についてもご家族との連携を図り不要不急の外出を避ける等の協力をお願いします。

その中で職員の研修、会議の在り方が難しい状況になっており、オンライン研修を含め、法人内の打ち合わせや研修、会議の方法等を検討していきます。

2. 清陽会総合計画の実施に向けた事業の推進への取り組み

社会福祉法人のあるべき姿（長期ビジョン）のうちの中期目標

（1）利用者に対する基本姿勢

- ①人権の尊重
- ②サービスの質の向上
- ③地域との関係の継続
- ④生活環境、利用環境の向上

（2）社会に対する基本姿勢

- ①地域における公益的な取組の推進
- ②信頼と協力を得るための情報の発進

（3）福祉人材に向けた基本姿勢

- ①トータルな人材マネジメントの推進
- ②人材確保に向けた取組の強化
- ③人材の定着に向けた取組の強化
- ④人材の育成

(4) マネージメントに対する基本姿勢

- ①コンプライアンス（法令等の遵守）
- ②組織の統治（ガバナンス）の確立
- ③健全な財政規律の確立
- ④経営者としての役割

3. 地域共生社会の実現に向けた経営確立への取り組み

我が国では、地域の相互扶助制度や、家族同士の助け合い、地域、職場、家庭といった、生活の様々な場面において支えあう機能が存在していましたが、高齢化や人口減少が進み、地域社会の存続への危機感が生まれる中、社会保障や産業などの領域を超えた繋がり、地域社会全体を支えていくことが重要となってきました。地域共生社会は、このような社会構造の変化や、人々の生活の変化を踏まえ、人と人、人と資源が世代や分野を超え繋がることで、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域を共に創っていく社会を目指すもので、地域課題の解決力の強化をする取組であります。

清陽会としても、地域共生社会実現の一躍を担うことができるよう、地域社会と連携を続けてまいります。

4. 福祉人材の確保、定着、育成への施策の実施

人材確保の対応については、トータルな人材マネジメントシステムを構築し、就労管理体制を整備し、職員の安全と健康の確保への取組みを強化する必要があります。公正、公平な人事制度、キャリアパスの明確化、研修プログラムの構築をし、ワークライフバランスに配慮した職場環境を整備し、職員一人一人が主体性を持って能力を発揮することができるような職場環境作りをしてまいります。